



2014年2月21日

先進のプラグイン・ハイブリッド・スポーツ・カー「ニューBMW i8」 が東京マラソン 2014 の先導車として登場

- 4年連続で東京マラソンのオフィシャル・スポンサーとして協賛。
- BMW i8 の先導車に加え、大会車両として、電気駆動の BMW i3 を提供。
- 「日本人男子激励賞」の副賞として、「BMW i3」を贈呈。
- 東京マラソン 2014 のための BMW スペシャル・サイトがオープン。

ビー・エム・ダブリュー株式会社(代表取締役社長: アラン・ハリス)は、2014年2月23日(日)開催の東京マラソン 2014 へ協賛し、4年連続で東京マラソンのオフィシャル・スポンサーを務め、先導車の「BMW i8(アイ・エイト)」をはじめ、大会車両として電気駆動の「BMW i3(アイ・スリー)」など 21台の BMW 車両を提供する。

また、東京マラソン 2014 は、第 17 回アジア競技大会における男子代表選手の選考競技会も兼ねており、日本人トップの男子選手に、公式副賞「日本人男子激励賞」として、「BMW i3(アイ・スリー)」を贈呈する。

電気を動力源とする BMW i3、そして、プラグイン・ハイブリッド・システム搭載のプレミアム・スポーツ・カー BMW i8 をラインアップする「BMW i」は、BMW グループの中核ブランド BMW のサブ・ブランドとして位置付けられた持続可能な次世代モビリティを提供するプレミアム・ブランドである。BMW i の製品やサービスは、専用の設計、開発、企画、生産などにより、持続可能なプレミアム・モビリティを実現するという革命的な手法を採用している。

この BMW i をはじめ、全ての BMW 車は、「よりクリーンに、よりパワーを。BMW EfficientDynamics(エフィシエントダイナミクス)」の設計思想に基づき、燃料消費および排出ガスを削減しながらも、「駆けぬける歓び」も最大化するという理念を実現している。この理念は傑出したパフォーマンスを発揮するアスリートにも共通するものであるため、BMW は 4 年連続で東京マラソンへの協賛を行ない世界規模の市民マラソンをサポートしている。

BMW スペシャル・サイトがオープン

BMW の「東京マラソン 2014 スペシャル・サイト」では、大会車両となる BMW モデルの紹介、機能性医学の観点から EfficientDynamics の理念と運動した効率的に走る方法を解説するスペシャル・コラムの掲載や、「東京マラソン EXPO 2014」の BMW 特設ブース等の情報を詳しく紹介している。さらに、BMW クルーズ・バイクなど、走る歓びをよりアクティブに愉しむためのアイテムを贈呈するプレゼント情報も掲載している。

BMW 東京マラソン 2014 スペシャル・サイト URL: www.bmw.co.jp/marathon

BMW Motorrad、ならびに、BMW クルーズ・バイクの 2 輪車も提供

BMW は、先導車などの 4 輪車両に加え、ペース・メーカー用バイクに、BMW Motorrad(モトラッド)が誇る最高のツーリング・バイク「BMW K 1600 GTL(ケー・センロッピヤク・ジーティーエル)」を提供する。また、大会当日の医療救護体制のため、救命救急士が AED を背負い自転車でコース上を巡回監視するモバイル隊用の移動手段、ならびに、車両隊列車いす対応として、計 46 台の BMW クルーズ・バイク自転車を提供し、緊急事態に備えたサポートを行なう。

BMW i3、および、BMW i8 について

BMW i3 は大都市圏向け電動駆動の車として専用設計された 4 人乗りモデルであり、BMW i8 は高性能マシンのスポーツ性を持ちながら小型車並みのすぐれた燃費効率を兼ね備えたプラグイン・ハイブリッド・モデルである。両モデルとも、LifeDrive(ライフドライブ)構造と呼ばれる革新的な車体の基本構造コンセプトを採用している。この LifeDrive 構造は、パワートレインなどを収めるシャシーの役割を果たすアルミニウム製 Drive Module (ドライブモジュール) および乗員などが搭乗する基本骨格(パッセンジャー・セル)となる炭素繊維強化プラスチック(CFRP)製 Life Module (ライフモジュール) により構成されている。ボディ剛性と乗員保護性能に優れている CFRP は高い強度を誇りながら、スチールより 50%、アルミより 30% 軽量である。これにより、バッテリーによる重量増を、革新的な CFRP とアルミのアーチテクチャーを用いることで相殺し、たとえば BMW i3 ではわずか 1,260 キロの車両重量を実現している。この新構造による軽量化と低重心化は卓越した運動性能にも大きく貢献している。これにより、BMW の特徴である 50:50 という理想的な重量配分と後輪駆動にもこだわる BMW i3 および BMW i8 は、未来の駆けぬける歓びを提案する。

BMW i3 の主な特長(数値は参考値)

- 最大出力 125kW/170ps、最大トルク 250Nm を発生する電気モーターおよび総電力量 22kWh のリチウムイオン電池を搭載し、7.2 秒の 0-100km/h 加速をゼロ・エミッション走行で実現。
- 一回の充電で、約 130km から 160km までの走行が可能。走行モードを ECO PRO(エコ・プロ)モードにする事により約 180km、ECO PRO+(プラス)にする事により約 200km まで航続距離を延ばす事が可能(実用走行を想定した BMW 社内基準)。
- レンジ・エクステンダー(発電用エンジン)搭載モデルにおいては、航続距離を約 300km まで延ばす事が可能。
- 日本仕様の BMW i3 は CHAdeMO(チャデモ)方式の急速充電に対応している。急速充電の利用により、約 30 分で 80% 充電が可能となる。通常使用する自宅や勤務先での普通充電の場合は、約 8 時間で満充電となる。
- 車両寸法は日本の機械式駐車場の利用が可能となるよう、全幅 1,775mm、全高 1,550mm を実現。

BMW i8 の主な特長(数値は参考値)

- 最大出力 170kW/231ps、最大トルク 320Nm の直列 3 気筒 1,499cc の BMW ツインパワー・ターボ・エンジンを搭載。
- 電気モーターは、定格出力 96kW/131ps、最大トルク 250Nm を発生。
- BMW ツインパワー・ターボ・エンジンおよび電気モーターの組み合わせにより、システム・トータル最高出力 266kW/362ps、最大トルク 570Nm となり、0-100km/h の加速は
- 4.4 秒を、EU テスト・サイクルでの燃費は 2.5l/100km (100 キロメートルを走行するのに 2.5 リッターの燃料を消費) の低燃費を実現。
- 電気モーターのみでの走行の場合、最高速度 120km/h まで走行可能で、最長 35 km までゼロ・エミッション電気走行ができる。
- 運動性能と効率性のバランスを最適化するコンフォート・モードによる走行では航続距離が 500km 以上。

この件に関する読者および視聴者からのお問い合わせ先は、
BMW カスタマー・インターラクション・センター：フリーダイヤル 0120-269-437 を
ご掲載ください。
受付時間：9:00-20:00 年中無休
BMW インターネット・ウェブサイト：<http://www.bmw.co.jp>

この件に関する報道関係者のお問い合わせは：
BMW Japan Corp. 広報室：03-6259-8025(企業広報)